

タバコの害

いいじま呼吸器科内科クリニック 飯島 正之先生

喫煙が健康に及ぼす影響は多岐にわたっている。血圧の上昇にともない、脳卒中・心臓病・閉塞性の血管疾患など多種あるが、癌との関連は大きな問題である。喫煙はどの癌にもよくないが、直接の影響はやはり肺癌である。我が国の男子の胃癌と肺癌の死亡数（年齢調節死亡率）は1975年に胃癌30403人(79.4%)、肺癌10711人(28.1%)であったのに、1995年には胃癌32015人(45.4%)、肺癌33389人(47.5%)となり、肺癌による死亡が胃癌による死亡を上回った。

喫煙して肺癌が発生し、それとわかるまでには20～30年を要するため、過去に男子成人喫煙率65%(現在は56%以下)の結果が今出てきているといえよう。

最近は間接喫煙の問題が大きく扱われるようになってきた。喘鳴や咳をおこす子どもの発生率は片親の喫煙で倍に、また、両親の喫煙でそれ以上の発生率となり、他のアトピー性疾患の発生率も高くなる。5歳から6歳以下の子どもは、間接喫煙による喘息の発生率の上昇、肺機能の低下も心配されている。

喫煙は、本人のみならず間接喫煙という形で周囲への影響も大きな問題となってきた。日本呼吸器学会は社会活動の一環として8月1日を「肺の日」と定め、広く肺の大切さを色々な形で呼びかけることにした。

病気をなくすためには予防が最も大切であり、そのために禁煙活動は重要なことである。
